

教育警察委員会の概要（教育）			
開催年月日	令和5年10月2日	開会、閉会時間	12時55分から 13時56分まで
委員の出欠	出席：藤本委員長、小川副委員長 佐藤委員、加藤委員、布俣委員、森（治）委員、木村委員、判治委員 欠席：なし		
(付託案件の可否)			
(予 算) 議第70号 令和5年度岐阜県一般会計補正予算のうち歳出予算補正中教育警察委員会 関係及び債務負担行為補正中教育警察委員会関係 (可決)			
(質疑の内容)			
発言者	発言内容		
【9月補正予算】			
布俣委員	スマート農業に対応した高度な産業教育実習装置の整備について、具体的な内容は。		
高校教育課長	農林水産省の補助金を活用して、ICT 対応のトラクターやコンバイン、自動無人稲刈り機等、スマート農業に関係した高校生の授業に活用できる大型機器を整備するものである。		
布俣委員	1,500 万円の増額補正であるが、今年度導入を予定している内容をもう少し詳しく教えてほしい。		
高校教育課長	今年度は、岐阜農林高校、大垣養老高校、加茂農林高校、恵那農業高校の4校に、ICT 対応のトラクター等スマート農業に対応した大型機器を整備する予定である。 昨年度も、同様の農林水産省の補助金を活用し、大垣養老高校、郡上高校、飛騨高山高校に ICT 対応のトラクター等を導入したところであり、国の予算の活用により、大型機器や、スマート農業に対応した機器を整備している。		
加藤委員	当初予算の段階から整備は計画していたと思うが、1,500 万円の増額補正をした理由は、整備の追加のためか、不足額が生じたためか。		
高校教育課長	今回の増額補正は、昨年度末から今年度始めにかけて、国からの採択を受けて、計上しているもので、追加の整備を行うものである。		
加藤委員	当初予算も含めた全体額としてはどのくらいになるのか。		
高校教育課長	全体として3,000 万円の事業である。全体の1/2である1,500 万円が国の補助である。		
【その他報告】岐阜県教育振興基本計画（第4次岐阜県教育ビジョン）の骨子案について			
佐藤委員	第3次岐阜県教育ビジョンの成果と課題をどのように捉えているか。		
教育総務課長	まず、成果としては大きく2つあり、1つ目はふるさと教育の充実である。小学校では体験型学習、中・高では課題探究型学習により、小中高一貫して、年齢階層に応じたふるさと教育を進めることができた。 2つ目は、ICT 教育の充実と利活用の推進である。コロナ禍の影響を大きく受けた計画期間の中で、すべての公立学校で1人1台端末を整備し、教員の研修を含めて ICT 機器を		

	<p>利用した学習活動を進めることができた。</p> <p>課題としては、コロナ禍により、対面・対話による学習や体験学習・修学旅行等感性を育む学習等に制限があったことから、人とのかかわりあいやコミュニケーション能力を育むことが十分できなかった部分があり、第4次教育ビジョン策定委員からもコミュニケーション能力等が重要であるとの意見をいただいた。</p>
佐藤委員	<p>ふるさと教育の充実により、体験学習が多くなったと感じる。こうした取組みは、重要であるのでこれからも継続していくべきだと思う。</p>
佐藤委員	<p>「目指す人間像」について、第3次教育ビジョンでは、「世界的な視野をもち、地域社会の活性化に貢献する『地域社会人』」であるのに対し、第4次教育ビジョンの案では、『ふるさと岐阜』で育んだ自身と誇りを胸に、よりよい未来の実現に挑み続ける人」となっており、表現が大きく変わっていると感じる。どういった観点で見直したのか。</p>
教育総務課長	<p>これまでの教育ビジョンにおける「地域社会人」という表現は、本来は子どもが住む地域で活躍するという意味であるが、岐阜県内のみととらえられる場合がある。</p> <p>また、教育ビジョンは県内で生まれ育った子どものための計画であり、その教育を担う教員にとっても理解できる計画である必要があると考え、「地域社会人」という言葉の意味を継承したうえで、わかりやすいより平易な表現に言い換えた。</p>
佐藤委員	<p>第3次教育ビジョンの目指す人間像に含まれている「世界的な視野を持ち」の部分も記載がないが、継承されているのか。</p>
教育総務課長	<p>「よりよい未来の実現」に盛り込まれている。教育ビジョンは教育基本法に基づく教育振興基本計画であり、地方自治体は国の計画を参酌するという規定があるが、第4期の国の計画には「持続可能な社会の創り手の育成」とあり、世界的な課題を自分事として捉え、自ら解決し行動する力や世界も含めた広い視野を持つことを求められている。</p> <p>この国の理念を第4次教育ビジョンにも含めつつ、「持続可能な社会」は誰にとっても「よりよい未来」であると考え、この言葉に集約し、意味を込めている。</p>
佐藤委員	<p>未来を担う子どものために、平易な言葉で表現するのは良いが、表現のみで見ると第3次教育ビジョンとの連続性が薄いと感じられる。</p> <p>もう1点、第3次教育ビジョンの基本方針にある「勤務環境の改革と教職員の資質向上」について、第4次教育ビジョンの骨子案ではなくなっている。まだまだ多忙化等が問題になっている中で、なぜ基本方針から消したのか。</p>
教育総務課長	<p>第4次教育ビジョンでは、子どもための計画という側面を全面に出し、教員の働き方改革などに関する項目は子どもを支える土台として捉えていることから、基本方針4『学びの多様なニーズに応える環境』の充実』に集約して盛り込むことを考えている。</p> <p>教職員の働き方改革や教員不足は喫緊の課題であり、これからも重要なテーマとして引き続き取り組んでいく。</p>
佐藤委員	<p>表現されている部分について説明されれば意味は分かるが、言葉として残すことは大切である。教職員の長時間勤務・多忙化の解消など勤務環境の改善はとても大切な要素であるため、表現について検討してほしい。</p>
教育総務課長	<p>ご意見を踏まえて検討したい。</p>
森(治)委員	<p>第4次教育ビジョン骨子案の基本方針1『豊かな人間性の育成』のうち「家庭や地域と学校とが連携して子どもたちを育む環境づくりの推進」について、コロナ禍の中で、行事等が中止となり、学校・地域・家庭の距離感が生まれたと感じる。この項目は、これまでの感染症の影響に対する課題を踏まえた内容となるのか。</p>

教育総務課長	感染症対策については、学校内感染が蔓延しているような場合は、配慮が必要であるが、5類に移行後は基本的に、学校運営には制限がないことから、学校行事等の開催方法については、学校の中で精査したうえで、地域等と連携するなどして取り組むものと考えている。また、教育ビジョン策定委員からは、感染症対策に限らず、様々な課題の解決は学校のみでは難しく、地域の協力や家庭における教育力の向上はますます重要であるという意見があるため、学校と地域や家庭との連携をより一層進めたい。
森（治）委員	子ども会などの地域の行事や学校の入学式等への地域の方の参加を含めた学校・家庭・地域の連携は、未来を担う子どもたちの健全育成という意味で重要である。各市町村にも方向性を示すためにも、ビジョンの中でも大きく取り上げてほしい。
加藤委員	第3次教育ビジョンでは、勤務環境の改革と教職員の資質向上を大きな課題として捉え、基本方針に掲げていたが、第4次教育ビジョンでは他の基本方針に集約することについて不安がある。
教育総務課長	第3次教育ビジョンも子どものための計画であることに変わりはないが、第4次教育ビジョンでは子どものためという部分をより強く押し出したという意図がある。勤務環境の改革と教職員の資質向上は重要な課題であるので、表現について検討していきたい。
加藤委員	他の基本方針に集約されたということは、第3次教育ビジョンの中で取組みを行い、ある程度課題の解消に向けて進展があったという理由からか。
教育総務課長	議員ご指摘の点については、これまでも様々な取組みを進めている。計画の中でも言葉として表現できるよう検討していきたい。第4次教育ビジョンにおいても取り組むべき課題であるという認識は変わらない。
加藤委員	第4次教育ビジョン骨子案の基本方針4『「学びの多様なニーズに応える環境」の充実』のうち「魅力あるこれからの学校づくりの推進」とはどのようなことを指すのか。
教育財務課長	県立学校施設に関しては、長寿命化計画で改修等を整理しているが、「木質化」や「トイレの洋式化」など、より生徒が過ごしやすい環境になるよう維持管理をしていきたいと考えている。
教育総務課 教育主管	これまで県立高校の活性化として、平成28年以降、施設設備も含め、地域と一体となって魅力ある高校づくりを進めてきたところ。そのような中で、生徒の数や学校の規模だけではなく、取り巻く状況の変化を加味しながら、地域と一体となって学校のこれからの在り方について、検討を進めていくといった内容を考えている。
加藤委員	第2次教育ビジョンでは「家庭の教育力の向上」を一つの項目として掲げており、第3次教育ビジョンと第4次教育ビジョンの骨子案では地域との連携に置き換えられているが、なぜか。家庭の教育力の向上は重要であると考えている。連携先としての地域や家庭の役割は、どのように位置付けていくのか。
教育総務課長	家庭教育の推進については、必ずしも自立できる家庭ばかりではないことから、家庭には地域や学校など、様々な方が関わる必要があると考えている。連携の必要性について第4次教育ビジョンに盛り込んでいきたい。
加藤委員	地域や家庭など、学校との連携先にも、ある程度の責任を持っていただくことは重要である。教職員の多忙化解消にもつながるため、特に、家庭教育について学校に任せきりにならないような記載にしてほしい。
木村委員	「私立学校教育の振興」の位置づけが、第3次教育ビジョンでは、基本方針3「未来を切り拓くための基盤となる力を育む教育」であるが、第4次ビジョンの骨子案では、基本

	方針2『「未来を創る確かな学力と実践力」の育成』に変わっている。その理由は。
教育総務課長	「私立学校の教育の振興」は、教育の基本原理の「知」「徳」「体」のうち、「知」にあたると考え、第4次教育ビジョン骨子案では「知」を示す基本方針2『「未来を創る確かな学力と実践力」の育成』に位置付けた。
木村委員	私立学校教育をどのように捉えているか。
教育総務課長	私立学校に対しては、法人の建学の精神に基づいた独自の運営を尊重するという考え方に立っている。その中で、知事部局では、学校運営や財政的な面等に関する支援を行っているため、第4次教育ビジョンではそうした取組みを記載する予定である。
木村委員	私立学校の独自の運営の中には見習う部分もあると思うので、県立学校の運営もそれを踏まえて取り組んでほしい。
木村委員	第4次教育ビジョン骨子案の基本方針3『「健やかな体」の育成』のうち「健康教育、食育の推進」には、心の教育も含まれているか。
教育総務課長	心身ともに健全な発育を促すための教育と捉えている。県教育委員会では、命の教育をはじめとして、心身の健全な発達の必要性、命の大切さなどを訴える教育を進めており、引き続き進めたい。
小川副委員長	教育ビジョンにおいて目指す人間像は非常に重要であり、「よりよい未来の実現に挑み続ける人」という表現はとても共感する。 主要8か国の18・19歳に対する「自分は社会を変えられるか」という日本財団の調査に対して、日本は20%と他国に比べて低い。日本人は変えられると思っていないから、挑まないということ。挑み続けることは、「自己効力感」と言われるエフィカシーが非常に必要になると思われるので、子どもがしっかりと目標をもって行動を促すためにも、エフィカシーを育成してほしい。
教育長	国によって、社会の捉え方が違い、政治や経済の状況が子どもにどう映っているかによって異なると感じる。子どもに社会をどう見つめ、思いとしてどう変えていくのかを問うのが今後の教育現場において重要と感じる。また、第4次教育ビジョンの策定に当たっては、エフィカシーについても意識して策定したい。
布俣委員	教育ビジョンの策定過程におけるスクールミーティングはどのように実施するのか。特にPTA・保護者からの意見は重要なポイントと考えるため、定期的の実施してほしい。
教育総務課長	スクールミーティングは校種問わず県内の学校を訪問し、児童・生徒や保護者、教職員等と意見交換を行っている。スクールミーティングは、策定年度以外の計画期間中も実施しているため、引き続き関係者と意見交換を重ねながらビジョンの取組みについて進捗を確認したい。
布俣委員	保護者はPTA役員を指すのか。
教育総務課長	代表の方という形になるため、保護者と言うのは、例えばPTAや学校運営協議会の委員等である。
【陳情】	
	(質疑なし)